

平成 21 年 4 月 13 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18500473

研究課題名 (和文) 現代スポーツの公共性に関する文化社会学的研究

研究課題名 (英文) Cultural-Sociological Study on the Publicness of Contemporary Sport

研究代表者

菊 幸一 (KIKU KOICHI)

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授

研究者番号：50195195

研究分野：スポーツ社会学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、スポーツ科学

キーワード：現代スポーツ、公共性、文化社会学、近代スポーツ、レジャークラス、体育、公共圏

1. 研究計画の概要

(1) 「文化としてのスポーツ」が、なぜ、どのように「公共性」と結びつき、それがなぜ現代スポーツでは新たな公共性を構築することに結びつくのかに関する理論的課題を文化社会学的観点から明らかにする (文献的研究が中心)。

(2) この新たな「公共性」と結びつく現代スポーツ文化における組織的、制度的な可能性を内外の事例調査 (主に欧米を中心とする自立的なプロ・スポーツ文化および企業、地域、学校等とスポーツの文化的特性との新たな関係における公共性の萌芽) によって示す (海外調査が中心)。

(3) その結果を我が国の企業スポーツ、地域スポーツ、学校スポーツ等々の具体的なあり方 (インタビューを中心とする現在の実態調査および資料収集による国内調査が中心) に適用して、現代スポーツが構築しえる新たな公共性構築の道筋とその実践的可能性を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の進捗状況

(1) わが国のスポーツ概念が近代スポーツと体育概念の強固な癒着によって形成され、その呪縛から逃れられない現状およびシステムがあり、近代スポーツから現代スポーツへの変化をとらえる理念型をさらに検討していく必要性が示唆された。これとの関連からわが国の既存スポーツシステムが体育的理念に基づくイベント中心型システムとなっており、各スポーツ組織が種目別大会運営組織の限界を有していること、またその限界

に気づかない人的リクルート (運動部活動を基盤とするボランティア・リクルート) になっているため、そこにきわめて構造的な問題が潜んでいることが明らかとなった。

(2) それに対して、イギリスでは階級的差異を前提とした明確なスポーツ政策 (体育政策ではない) が意識され、スポーツの文化的要素がもつ社会的普遍性を公共的役割に転換しようとするパワーが存在していることが明らかとなった。近代日本では、レジャークラスの欠落がスポーツ概念の成立に大きな影響を及ぼし、近代体育の概念にスポーツが包摂された結果、現代スポーツの公共性が市民的公共圏として解釈されない要因となっていることが明らかにされた。

(3) 現代スポーツの社会的メッセージ性が未だに企業の公共的イメージ戦略に位置付けられていない現状が示される一方で、法人格を有する民間スポーツ組織の公共的使命がクローズアップされ、それに伴う組織的改革と事業改善が必要なことが明らかになった。しかし、産・民スポーツ関係者に共通するのは、現代スポーツの需要に対する下からの公共的価値構築への認識の低さであり、この自由な認識を阻む大きな要因として従来の体育的公共性からのアプローチの限界が考えられた。また、現代スポーツの公共性と公共圏に関する国際比較から、各国ともに現代スポーツの新たな公共性をその文化的意味から共通にアプローチしようとする共通性が認められた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

年次目的と年次計画にそって、仮説化した内容がある程度論証している状況にあるが、海外におけるインタビュー調査が思ったほど進まなかった感がある。時期的な問題や相手の都合が急に悪くなり実現しなかったこともある。しかし、他の研究調査を利用して当初の調査目的を達成するチャンスにも恵まれているので、海外調査の実は上がっていると評価できる。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 産・民セクターの下からの公共性を現代スポーツの需要と結び付けて考える事例調査が不足しているため、指定管理者制度にみられる問題点を事例調査する予定である。

(2) 学校体育システムにおける体育需要と現代スポーツの公共性との関連を整理する必要がある。そのことによって、体育需要に特徴付けられるわが国のスポーツシステムに対して、現代スポーツの文化的公共性がどのような影響を及ぼす可能性があるのかについて論じる予定である。

(3) 4年間の研究成果を再整理し、当初の研究目的であった現代スポーツの公共性の内容、条件、システム、可能性についてまとめる(4年次に報告書を作成)。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計13件)

- ① 菊幸一、スポーツ社会学における身体論の認識論的陥穽、スポーツ社会学研究、査読有、16巻、2008年、pp. 71-86.
- ② 菊幸一、スポーツ政策研究の領域と課題、体育・スポーツ政策研究、査読有、16巻1号、2007年、pp. 13-55.
- ③ 菊幸一、スポーツ振興からスポーツプロモーションへ、みんなのスポーツ、査読無、29巻9号、2007年、pp. 12-14.

[学会発表] (計5件)

- ① Koichi KIKU and Yasuo YAMAGUCHI, Sport and Public Sphere, ISSA 2008 5th World Congress, 2008. 7. 28, 京都大学

[図書] (計3件)

- ① 菊幸一、「学校体育の『危機』と生涯スポーツ」大谷善博監修、変わりゆく日本のスポーツ、世界思想社、2008年、pp. 186-203.